

佳作

ツバメの巣立ち

茨城県常総市立岡田小学校四年 三浦 悠翔

「あつ、ツバメだ。」

家のげんかんにツバメが巣を作っていました。

「ツバメに巣を作られた家には、何かいいことがあるんだよ。」

と、お母さんが言ったので、ぼくは少しワクワクしました。

すると、数日後ツバメの巣から小さな頭が三つ見えしました。

「ひながうまれたんだ。」

ぼくはうれしくて、ずっとツバメの様子を見ていました。親鳥がひなにエサを運んでくるとピーピーとないて大きな口を開けてエサをもらっていました。

ぼくが学校から帰ってくると、げんかんにへびがいました。ひなをねらっているんだと思い、ぼくは近くに落ちていたぼうで、へびをおいはらいました。

「また来たらどうしよう」と、ふあんになりました。すると、ぼくのふあんは当たってしまいました。ツバメの巣がこわされていたのです。ぼくはいそいでひなをさがしました。

「一羽、二羽、…あ、三羽。」

ひなは三羽ともぶじでした。それから落ちてしまったひなをどうしようか考えました。巣はこわされてしまったし、ひなは人間にさわられると親鳥が世話をしなくなると聞いたことがあったからです。でもこのままにはできないので、ひなをさわらないようにタオルでつつんで空箱にそっと入れポストの上におきました。親鳥がくるか何度もげんかんへ見に行きました。すると、親鳥がエサをひなの口に入れていました。ぼくはとても安心しました。

そしていよいよ巣立ちの時です。ひなが羽をパタパタさせて、親鳥は電線にとまって待っています。

「とんだ！」

ひなが一羽、二羽、そして三羽と飛び立って行きました。ぼくは少しさみしい気持ちもあったけど親鳥といっしょに飛んでいるひなを見てうれしかったです。

そして一週間くらいたった日、

「ゆうと、ツバメがもどってきた。」

と、お母さんに言われ行ってみると、電線に五羽のツバメがとまっていました。

「きつとゆうとにありがとうって言いに来たんだよ。」

と言われ、ぼくはまたうれしい気持ちになりました。また来年も家のげんかんにもどってきてくれるのを楽しみにしています。ツバメに巣を作られた家においておきるのは本当でした。